

形 式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	有棘細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Advanced cutaneous squamous cell carcinoma of the trunk and extremity: Analysis of prognostic factors.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	SCCCQ5-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Surg Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	64	
	号	3	
	ページ	212-217	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1997	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	North Jr JH	Division of Surgical Oncology,Roswell Park Cancer Institute,USA
	その他著者 1	Spellman JE	
	その他著者 2	Driscoll D	
	その他著者 3	Velez A	
	その他著者 4	Kraybill WG	
	その他著者 5	Petrelli NJ	
	その他著者 6		
その他著者 7			

一次研究の8項目	目的	体幹・四肢の有棘細胞癌の臨床、病理学的予後因子を明らかにする		
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および奨励対照研究		
	セッティング	1施設		
	対象者	四肢または体幹原発の有棘細胞癌の局所進行例と転移例		
	対象者情報(国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
	対象者情報(性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (2)		
	対象者情報(年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ()		
	介入(要因曝露)	リンパ節郭清		
	エンドポイント(アウトカム)	エンドポイント	区分	
		1	生存	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
		2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
		3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
		4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
		5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
		6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
		7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	主な結果	40症例を対象とした retrospective study. 観察期間の中央値は24ヶ月 単変量解析において手術術式の違いによって予後に有意の差が認められた(p=0.009)。リンパ節郭清については15例に対して行われた。鼠径郭清9例、腋窩郭清5例、頸部郭清1例、根治的リンパ節郭清13例、予防郭清2例であった。そのほか、切断術を行った際、切除範囲内に所属リンパ節が含まれ、結果的にリンパ節郭清を行ったとみなされる症例が5例あり、リンパ節郭清は合計20例、そのうち16例が根治郭清、4例が予防郭清であった。ただし、この両者については統計学的解析はなされていない。		
	結論	予防的リンパ節郭清の有用性は不確定なままである。		

	備考	
レビュワーコメント	レビュワー氏名	山崎直也
	レビュワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 体幹と四肢の有棘細胞癌に限定された論文である。症例数が少ない中で予防的リンパ節郭清を行った例はさらに限られており、科学的な根拠に基づいて予防的リンパ節郭清の意義を論じることは困難である。